

各地の取り組み その1 神奈川県藤沢市

神奈川にNP, BPの灯を灯して

子育て支援グループゆめこびと 代表 清水 正江

ゆめこびとは

私たちは、神奈川県藤沢市で、長い間子育て支援活動を行っている母親グループです。わが子の子育てに悩み、子育てを取り巻く閉塞感を感じていたことから、同じような思いを抱えていた仲間と1991年にグループを立ち上げました。

当時は、子育て支援という言葉もまだなかった時代。子育てに、社会の理解と支援が必要であることを、地域社会や行政にどう理解してもらうかは大きな課題で、苦勞も伴いました。しかし私たちは、地域情報紙の発行や、問題提起のためのシンポジウムやフォーラムの開催、母親が望む子育て支援のニーズ調査や、支援者養成講座の企画、子育て応援メッセの立ち上げや協力など、さまざまな活動を試みました。母親は支援の「受け手」ではなく、「担い手」でもあると考え、行政や専門職とともに多様な連携、協働事業も数多く実施。子育て真っ最中の母親たちが行う等身大の支援活動はそれまであまりなく、道なき道を切り開く感がありましたが、親が子育てを楽しめる環境づくりを願い、小さな一石を投じてきました。たった3人による活動ではありますが、その時々に必要な人とネットワークを組み、少しずつ大きな山を動かしてきたという自負もあります。

多くの方々に支えられながらの22年間でしたが、今でも私たちの活動にとって忘れられない大きなできごとが、当会の原田先生との出会いです。結成時のメンバーだった砂野加代子さんが関西に引っ越すことになり、先生と知り合うご縁をいただきました。当時から、私たちのようなグループ活動に共感してくれた先生は、遠く離れた地の手作り情報紙にエールを送り、書き下ろしの原稿を連載して下さいました。また研究や著書の中でも、グループ子育ての重要性にいち早く注目して社会に発信され、子育て支援界をリードし続けられています。そんな先生からの影響を受けたこともあり、今から8年前、当時まだ日本に導入されなかったばかりのNPプログラム(Nobody's Perfect)に私は関心を持ち、東京でCCC(NPO法人コミュニティ・カウンセリング・センター)6期生として、ファシリテーター養成講座に参加しました。

NPと出会って

90年代半ばから、子育て支援が叫ばれ出し、各地で子育て支援センターやひろばが作られ、国をあげて環境整備がされ始めたことは、親子にとって大きな朗報でした。しかしその一方で、自分たちが苦勞して所属するサークルや居場所を作りだす必要がなくなり、親たちはいつしかお客様、サービスの受け手にもなりがちでした。母親は決し

て社会的に弱い存在ではなく、本来はもっと力を持っているはず。そんな母親が持っている力を引き



「NPかながわフォーラム」  
右端が清水さん

出せるようなエンパワメント支援が何かできないだろうか。そう感じながら、模索していたとき、これだと思えたのがNPプログラムです。年々増加する虐待に対して、起きてしまった後の対応だけでなく、予防という観点から取り組むこと、そして地域でのつながりを育むことの大切さを痛感していましたが、NPはまさにコミュニティに働きかけるプログラムであることに私は魅力を感じました。これまで、神奈川県内や都内でNPを20回ほど実施してきましたが、最初は不安でいっぱいだったお母さんたちの表情がどんどん変わっていく姿をいつも目の当たりにし、グループの力ってすごいなあ毎回感動しています。だれかに支えてもらったという確かな実感は、今度は自分がだれかを支えたいという思いに変わっていく・・・そのまなざしが地域での支え合いや助け合いの輪につながっていくのだろうなあ感じます。またNPを受講した人は、その後かなりの割合で2人目、3人目を妊娠、出産するというマジック(?)にも驚かされます。地域の中に安心して頼れる仲間がいるという実感や見通しが、きつとお母さんたちの気持ちを後押しするのでしょうか。そうしたNPの魅力をもっと神奈川県内で広めていきたい、そう思って開催したのが2009年に主催した「NPかながわフォーラム」です。東京都内では、かなりの数のNPが実施されていますが、ここ神奈川では、まだまだこのプログラムのことが知られていないのが現状でした。そこで、神奈川県「子ども・子育て支援プロジェクト事業」の一つとして助成金をいただき、シンポジウム形式のフォーラムを開催しました。CCC代表で、NP-Japan副代表の三沢直子先生を講師に、行政、専門職、子育て支援関係者が100名集まり、有意義な話し合いが行われました。そのときの参加者の中で、これからもゆるやかにつながっていきま

## 22年の子育て支援活動が紡いできたもの

しょうと、手をつなぐべく呼びかけて生まれたのが「NPかながわ連絡会」です。現在25名の登録者がおり、MLや不定期の定例会を通してNPや子育て支援に関する情報交換を行っています。

### そして、BPへ

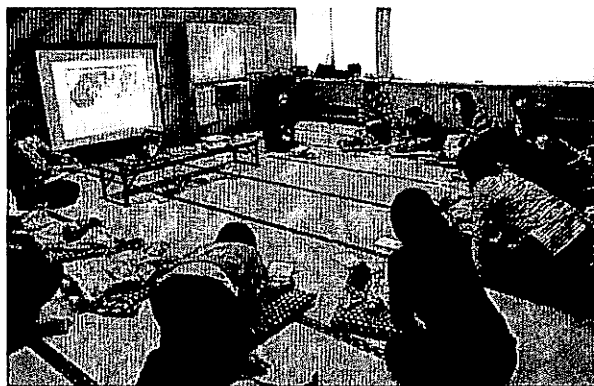
次に私たちが取り組んだのが、BPプログラム（親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた！”）です。親子のサロンやひろばの活動をしていても、年々参加する子どもの月齢が低年齢化している（0歳児の参加が多い）という現状があります。より早期の時期に、親子の絆づくりや親同士の仲間づくりを推奨することは、虐待予防や産後うつ予防の受け皿として、とても意味があると思えました。また、母子同室で保育は要らず、4回という回数など、BPの枠組みはとても実施しやすいものだと感じました。

2011年、東京の中野で、東京第1期の養成講座に参加。プログラムの産みの親である原田先生の、並々ならない思いが詰まった2日間を体験しました。またそこには、意欲的な東京1期生たちとの出会いが待っていました。さまざまな立場の参加者が、それぞれの現場で、少しでも親子にとって役に立ついいプログラムを実施したいと集結しており、BPはお母さんたちだけでなく、思いのあるファシリテーター同士をも結びつけてくれるものだと感じました。NPの手法は、より幅広い対象層に生かされると実感し、複数のプログラムを提供できれば、自治体やそこに住むお母さんが自分に合ったプログラムを選べることに繋がると、期待感がふくらみました。

### 県事業として

そうした矢先の昨年度、神奈川県が新規事業として「親育ち支援事業プログラムモデル実施」をスタートしました。育児の不安感、負担感を軽減し、親育ちの支援を推進し、児童虐待予防を図ることを目的にプログラムに取り組んでいるNPOと協力して行うものです。NP、BP、トリプルPの3つのプログラムを県内3か所ずつの市町村でモデル的に実践し、その効果や課題を外部の専門家を交えて検証し、今後市町村が導入していくための手引書を作成することも目標にしています。

長い間、児童虐待の予防事業に行政がもっと力を入れてほしいと願っていたことが、ようやく叶えられた感がしました。私たちはこれまで県といろいろな事業を一緒に進めながら、地道な関係づくりを行ってきました。また県もこれまで、県内の子育てNPOが地域の課題解決に向けて企画実施する事業に対して助成を行う「子ども・子育て支援プロジェクト」（前掲）を6年間行ってきた実績があります。行政、市民、それぞれの得意分野を生かし連携、協働してきたことが、このような施策につながったのではないかなと思えました。



こうして「ゆめこびと」がBPプログラムを、そして「NPかながわ連絡会」がNPプログラムを、県内の未実施市町村を中心に実施する事業として受託。市町村説明会でプレゼンをしたところ、BPの実施を希望する市町村がとても多く、手応えを感じました。

実際に、このモデル事業の一環としてBPを実施して良かったのは、例えば、保健師さんがアウトリーチで不安の高いお母さん（一人ではアパートの2階から降りて外出することができない人など）を誘ってくれ、その方が他のお母さんたちの交流を通してどんどん笑顔になっていったこと。そしてそういう姿を、市や県の担当者、検討委員の方々が実際に見てくださり、その効果を直に感じていただけたことです。事業実施後のアンケートでも、どのプログラムも受講後の育児の困り感の変化、落ち込んだ気持ちの変化、親としての自信の変化等の項目で、高い数値で改善が見られました。参加者からは、NPでは「自分の気持ちを話すことができた」「子育ての方法はひとつではないことがわかり、仲間ができた」、BPでは「外出のきっかけができた」「発達の過程がわかった」「他の母親も悩んでいるということを知った」といった感想が寄せられ、効果的であったことが実証されました。事業は、今年度は市町村が実施する場合の補助事業となり、さらに県や市町村の保健師などの専門家がNPのファシリテーター養成研修に参加する事業も予定されており、一層の拡がり期待できます。

ようやく、県や市町村ぐるみで、NP、BPに取り組んでいこうという機運が高まりつつある今、これまでの長い道のりを思うと、あきらめずに継続してきた良かったなあと感慨深い思いがします。私たちは、10年以上前から神奈川県域で子育て支援活動を行う人たちとのネットワークである「かながわ子育てネットワーク」にも参加していますが、これからも、今まで培ってきた多様な県域の人とのつながりを生かしながら、神奈川の中で一人でも多くのお母さんたちにNP、BPを届けていけるよう、頑張っていきたいと思っています。